

## 翻訳にあたってのヒント

### その 69

#### これぞ翻訳の神髄！

本日、全翻協の板垣先生から「Translation Guide 2008年8月号」が届いた。先日、翻訳にあたってのヒントその66で「訳文はできるだけ短く簡潔に？」をアップしたが、ここで十分に書ききれなかった内容を補足してくれるような、正にこれだというような記載があった。

翻訳にあたっての一般原則には、(1) correct (正確であること)、(2) clear (明瞭であること)、(3) concise (簡潔であること) である「3C」に、(4) complete (完全であること) と (5) courteous (礼儀正しいこと) を加えた「5C」もあるが、板垣先生の唱える次の主張はそのさらに上を行くもので、まさに翻訳の奥義といえるものである。

このすべてを網羅した翻訳こそが理想的な翻訳といえるのであろうが、これをもれなくクリアする翻訳文を書き上げいくは、絶え間ない苦心惨憺、粒々辛苦の末に訳文を完成していくという姿勢が求められるのであろう。心しておきたい。(^^)

ただし、翻訳とは暗黙知が重要視される世界であろうから、人によって異なる勘、直観、経験といった個人差という多寡があり訳文には微妙な相違が生じる（もちろん誤訳を除く話）。質問大歓迎と言われても、分からないことをやみくもに質問していたんでは、人によってはいつまでたっても不明点が曖昧なまま同じ間違いを繰り返すだけだろう。質問があるなら悩み抜いた末に質問して自分なりに頭と体で覚えようという態度が質問する側には必要なのでは？と私は思う。

以下引用文。

◆ “C” ではじまる文章の要素（全翻協板垣先生の2008年8月号より）：

一口に Conciseness とか Clearness とか言っても、それでいいというものではありません。”C”の同類には、「Courtesy」も、「Character」も「Consideration」もあります。文書には情緒的な論法、批判的な言い回し、それに感動的な説得力も必要になります。文章の要素を以下に掲げます。

- (1) 論点が明快 (Clearness) であること。
- (2) 論旨が一貫 (Coherence) していること。
- (3) 内容が簡潔 (Conciseness) であること。
- (4) 情報が正確 (Correctness) であること。
- (5) 事実と矛盾しない (Consistency) 記述に徹すること。
- (6) 文章は好意的で丁寧 (Courtesy) であること。
- (7) 記述が具体的 (Concreteness) であること。

- (8) 自社の個性 (Character) を印象づけること。
- (9) 相手への配慮 (Consideration) を欠かぬこと。
- (10) 趣意が完結 (Completeness) していること。

ということになり、また、自社の提供する商品やサービスに対して

- A. 顧客の注意 (Attention) を喚起し、
- B. 関心 (Interest) を持続させ、
- C. 取引への欲求 (Desire) を刺激し、
- D. 相互の利益に結びつく実効のある行動 (Action) に導くための、積極的で、説得力のある論理を具えていなければならない、ということになる。(頭文字をとって「AIDA」と呼ばれる。)

以上を肝に銘じて、第 69 回目終わり。